

令和2年8月21日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 12時10分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 山内 みどり
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	山内 みどり
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	渡辺 優子
○	教育委員	野谷 悦

- 6 出席者氏名
- | | |
|----------------|--------|
| 教育部長 | 黒石 徳子 |
| 教育総務課長 | 下條 博史 |
| 生涯学習課長 | 小笠原 純二 |
| 教育総務課長代理 | 田中 明夫 |
| 教育総務課指導班長 | 境野 朋美 |
| 教育総務課教育総務班長 | 岩崎 稔史 |
| 教育総務課教育総務班主任主事 | 渡邊 一充 |
| 教育研究所研究員 | 清水 広 |
- 7 傍聴者 なし
- 8 調整者 教育総務課教育総務班主任主事 渡邊 一充

1 開会宣言

(教育長) 令和2年度8月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

山内委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 8月政策会議報告を資料に基づいて行う

(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明する。

- (渡辺委員) 猛暑が続いていますが、一学期の終わりから現在にかけて、体調不良等による欠席者は、5校どのような状況でしょうか。
- (教育総務課長) 夏休みの前から暑さが本格化し始め、また児童生徒のこれまでの生活の疲れも限界に近くなっていたので、丁度良いタイミングで夏休みに入れたと、何校かの校長先生がおっしゃっていました。二学期の開始時点での状況を確認したところ、不登校による欠席を除くほとんどの欠席理由は、熱中症の症状とのこと。委員のおっしゃるとおり、やはり体調管理は気を付けていかなくてはならないと認識しているところです。
- (岡野委員) 給食費の無償化について、給食費の払い戻しや金銭のやり取りは順調に進みますか。
- (教育総務課長) 現状では、9月～12月の4か月分の無償化を予定しています。中学校は、9月分を引き落としていないため、そのまま無償化に切り替えます。小学校は、7月と9月分を引き落としているため、9月分を翌年の1月分に振り替える形で進める予定です。保護者にはすでに案内を通知しているので、大きな混乱はないとは思っています。
- (山内委員) ガラスのうさぎのイベントは、子ども達への平和教育にとって、すごく意味のあるものだと思います。今年は中止になりましたが、イベントのおかげで先生方も学校で平和教育が出来ているのだと思います。今後、町に移り住んでくる方も多くなると思われるため、二宮町の歴史の事実として、覚えておくべきことだと思います。各小学校の人数も減少傾向にあるので、来年以降の再開を機に、全小学校の6年生と一緒に舞台上に立って歌えるような企画にできると良いと思います。是非、再開して続けていただきたいです。
- (教育長) 小学生の参加については、これまで6年生が一様に参加する方向で話を進めているので、再開後はその方向で出来たら良いと思いますが、現状、人が集まるのは難しいため、それに代わる形での参加の検討が必要だと思います。

4 付議事項

(2) 議案第 11 号 二宮町教育支援委員会委員の委嘱について

(教育総務課長) 二宮町教育支援委員会委員の委嘱について資料に基づいて説明

- (渡辺委員) 総勢 19 名の中の 5 名の方が、今回変更したということですか。
- (教育総務課長) その通りです。令和元年 10 月 1 日～令和 3 年 9 月末までの 2 年間の任期の中で、充て職の 5 名の委員は、それぞれの立場の方が変わりました。
- (野谷委員) 就学指導委員会と教育支援委員会はどのような関係ですか。
- (教育部長) 数年前に法律が変わり、就学指導委員会が、教育支援委員会という名称に全国的に統一されました。町でも条例化して設置しています。

(教育長) 委員に議案第 11 号について諮る。

委員全員賛成により、議案第 11 号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 小中一貫教育研究について

(清水研究員) 小中一貫教育研究について資料に基づいて説明。

- (渡辺委員) 先程、「事例校には小規模校が多いため、複数学級ある学校を候補に挙げている」とのことでしたが、小中一貫教育が小規模校に多い理由があるのでしょうか。例えば二宮町で実施することになると、最初はクラス数が増加することが想定されます。そのタイミングでの実施のメリット、またはデメリットについて情報をいただきたいと思います。次に、小中一貫教育のコーディネーターによる取り組み案はとても良いと思います。先生の負担が増える課題がある中で、少しでもソフトの部分にしっかりと時間や予算等をつけることは、実現に向けての力になると思います。また、最後の説明部分の職員の負担が増加する理由が、ワーキンググループによる一時的なものであり、実現後にはその負担が解消されるのかが気になりました。昨年の小中一貫教育の勉強会の中では、「地域住民が土となって、子どもを真摯に見守る先生方を風として、その風と土が合わさって風土になっていく」という言葉が出ていました。そのような意識をもっと高めていけるような取り組みも、並行して出来たら良いと思います。最後に、三本の矢を放つための基盤づくりのところに、「読解力の向上」というものがあります。確かに、二宮に限らず読解力が落ちてしまっている子どもが出ています。小さい時に本をたくさん読んでもらう経験がある子は、必然的に本を自分で読むことに繋がると思います。教育委員会は、小中学校のことに特化していますが、幼保とも上手く連携し小中一貫と結びつけて、町全体で「本を読む経験」を取り組めたら、小中学生の読解力の向上に繋がっていくと思います。

- （清水研究員） 教員の負担感は、実施後はもっと大きくなると思います。そのため、今の準備段階で、負担の内容と対策を十分に検討していかなくてはなりません。例えば、教科によって小学校の先生が教えるにくいところを、中学校の先生でカバーするといった、部分的な乗り入れも可能だと思います。それぞれの課題を十分検討し、教職員の負担を可能な限り軽くする方法を考えていくべきだと思います。全国の小中一貫校の多くは、その教育のために先生を新たに加配しています。ただ、加配するためには、必要な予算が生じることにもなります。他には、公務支援ソフトを使用して、教員の負担を減らすような取り組み等もあるようです。文部科学省では、「小規模校の問題における一定規模の児童生徒数の確保は、小中一貫教育の検討実施の契機の一つにはなるが、小中一貫教育としての狙いではない」ということを示しています。しかし実際には、児童が15人しかいないような地方では、小学校を一つに統合し、さらには中学校も統合するという流れで、小中一貫教育に取り組んでいるところが多いとのこと。加えて、地方は敷地が広いので、小中一貫教育の施設一体型を建てるのが可能です。二宮町では、同様に小中一貫で施設一体型を建てるのが出来ないで、そのあたりをどのように進めるか当然課題になると思います。
- （岡野委員） 小中一貫に関しては、その狙いや9年間のフォーメーション等も考えるべき重要なポイントと感じています。小中一貫教育の実践例を調査したところ、9年間で5・4年や4・2・3年、それから4・3・2年に分けるなど、いくつかの形態があります。「10歳の壁」、「中一ギャップの解消」、「その先のキャリアアップ」の3つの視点で考えた時に、4・3・2年の形態が一番良いかなと思います。色々な考え方があると思うので、多角的な視点を取り入れながら合意形成を図っていくのが良いと感じています。小中一貫は、カリキュラムのつくり方や学習だけではなく、それ以外にも様々な課題はありますが、それをやるだけの価値ある、成果は得られるものだと感じています。京都の大原学院で、小学校と中学校の先生が一つの教室で一緒に授業をしている様子を見学した時に、やはり一貫教育で乗り入れ教育をやるだけの価値はあると肌で感じました。また、大原学院を希望して赴任された先生が、「4・3・2制のミドルゾーンの3年間は教員としての腕の見せどころですから」という言葉を伺った時、鳥肌が立つ思いがしました。大原学院は先生方から見ても魅力ある学校なのだと感じました。小中一貫教育は先生方からみても魅力的であるべきだと思いますので、是非、そのレベルを目指して取り組みたいと思います。カリキュラムの作成等は一筋縄ではいかないと思いますが、その先に得られる確かなものがあるため、是非、今取り組まれていることを継続して、繋げていっていただきたいと思います。
- （山内委員） コロナをきっかけに、小中一貫をスピードアップさせられれば良いと思いました。大原学院は小中一貫教育に10年かかったそうなので、我々も少なくとも同じくらいはかかると思います。これまで、先生方がセミナーやワーキンググループ等の具体的な行動を起こしているため、土壌が整いつつある状況だと思います。今回、コロナの影響

で、中学一年生は、中一ギャップどころではなく、それ以上に大きな問題に直面したのではないかと思います。このような状況で、小中一貫であったなら、もう少し違ったフォローが出来たのではないかと想像されます。今回のような状況において、フォローの必要性がある子どものもとに、小学校の先生も中学校の先生と一緒に寄り添えるような連携が始まって良いのかなと思います。

- （野谷委員） 小中一貫便りにありましたが、「各教科の主体的、対話的で深い学びの推進」を授業の中にどう取り入れるのかが問題です。小学校、中学校での共通理解を進めるために、長期計画をなるべく早く示していただければ、先生方も見通しが立つと思います。今後も、教育委員にも小中一貫便りの配布をお願いします。
- （教育長） 現在、山西小学校を中心として、主体的、対話的で深い学びの研究を始め、全ての小中学校についても活動の幅を広げているところです。また、先進的な取り組みをしている川崎小学校における視察等も行っています。

（2）二宮町点検及び評価報告書について

（教育総務班長）二宮町点検及び評価報告書について資料に基づいて説明。

- （野谷委員） 点検の目的は何でしょうか。建物の耐久性等の性能部分なのか、非常階段や手洗い場等の整備状況なのか、どのようなことを点検するのかを確認したいです。
- （教育総務班長） 昨年度の重点施策として7つあるとお伝えしましたが、その中に学校施設のことも含まれています。したがって、ハード面に併せて、ソフト面も対象としています。ただ、ハード面では細かい部分より、広く全体的な視点で見たいと考えています。
- （岡野委員） 一年間の教育委員会の活動の目標値の設定と達成状況をきちんと判定出来るように設定すべきだと思います。評価も基本的には三段階あるので、目標値のレベルも三段階設定すべきだと思います。定例会や学校訪問についても、顕在化している現状課題の把握や、今後これから顕在化しそうな課題を発掘する役割があるため、その部分もしっかりと評価に取り入れることが出来れば、教育委員会としての達成感にもつながると思います。また、教育委員の年間の活動計画や目的が見えるようにすることで、今後入れ替わる教育委員としての心構えにもつなげられます。

（3）学校給食費の無償化の取り組みについて

（教育総務課長）学校給食費の無償化の取り組みについて資料に基づいて説明。

意見等なし

（5）その他

－ 次回教育委員会予定 －

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

(教育総務課長) 学校訪問の場所について補足及び学校へ行こう週間の説明。

○ (岡野委員) 学校訪問だけと言われたのはどこでしょうか。

○ (境野指導主事) 11月12日の二宮西中学校です。

－ 傍聴者退席 －

4 付議事項

(1) 議案第10号

－ 非公開 －

5 報告・協議事項

(4) 教育支援室、教育相談活動について

－ 非公開 －

12時10分 閉会